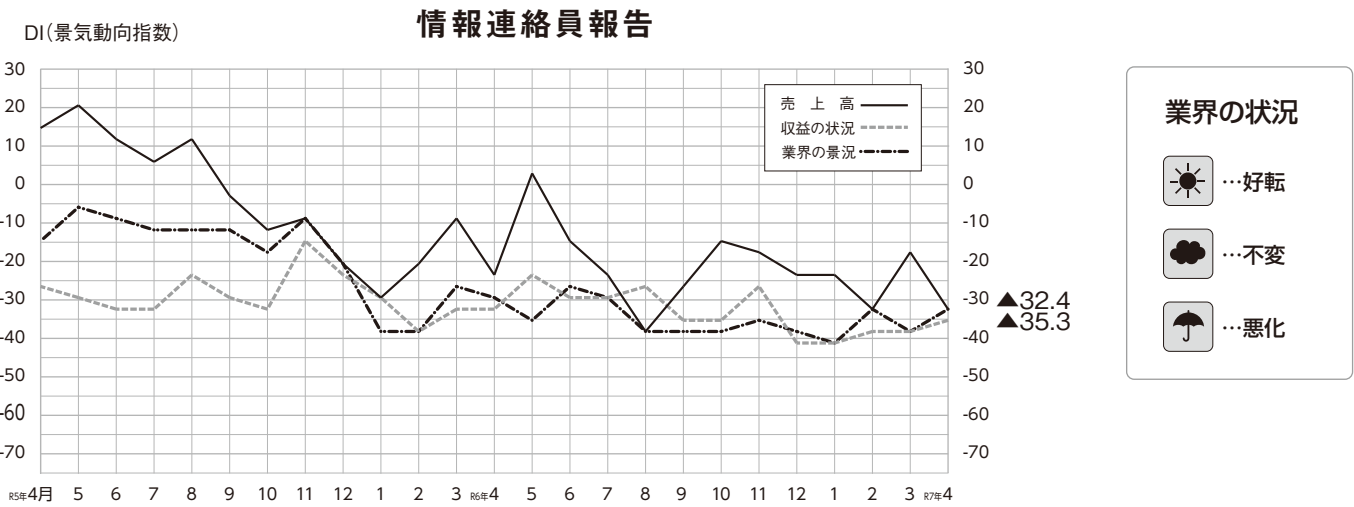




	電気機械器具小売	4月度は、サンピアでパナソニック合展 春の大感謝祭が開催された。多くの方にご来場頂き、400ℓから500ℓの大型冷蔵庫・省エネタイプエアコン・エコキュートが好調であった。全商品平均で前年比116.8%となった。
---	----------	---

	食品団地	4月度商況は昨年並み。月末前より、5月のGW用商品の動きは活発であった。経営者からは、「諸物価の値上がりによりコスト管理の計画を修正するばかりとなっている」といった声が多く、厳しいものを感じる。
	テントシート	原材料の高騰について、販売価格へのスムーズな転嫁が厳しい状況が続くと思われる。このような状況の中、5月より防災加工製品の値上げがあり、厳しい状況となっている。
	木製品素材生産	4月期の出材量は、先月並みではあるが昨年と比べると若干の減少となっている。丸太価格についても前月同様、製材品の動きが依然として鈍く、丸太の引き合いも一部弱くなっており、価格は弱含みで推移している。今後も出材量は変わらず少ない状況が続くと思われる。また、価格も大きな変動は見込めない。
	製紙(家庭紙)	紙製品全体の販売金額及び生産量は、昨年同月比で若干の減少に留まったが、販売量は前年同月比を落ち込んだ。特に衛生用紙においては、その他の衛生用紙の販売量が大きく落ち込んでおり、全体の販売量減少に影響を与えている。なお、衛生用紙のトイレトペーパーおよびタオルペーパーは、先月と同様に販売金額・販売量ともに好調に推移している。
	製紙(手すき和紙)	今月は前年と比較してほぼほぼ横ばいの状況だった。厳しい状況は変わらないが、今後の情勢によっては危機的状況になる恐れもある。
	生コンクリート製造	4月度の全組合員の出荷量は、対前年比91.4%であった。地域的には中央地区が増加しているが、その他の地区は対前年比60～90%程度で減少している。
	コンクリート製品	対前年同月比98.0%で、昨年度と同様の状況である。公共事業の予算規模も昨年と同じ程度であるため、今後も同様に推移すると考えている。
	刃物製造	注残分の品がまとまって仕上り、売上が大きく伸びた。しかし、この後がどうなるか心配なところである。最近では海外からの受注が少し落ちてきたような感じも受ける。
	機械団地	需要が停滞する中で「電気代や労務費などの上昇が収益を圧迫している」「輸出系企業との取引では、トランプ関税により先行きが見えず需要が悪化しつつある」といった声が上がっている。団地内の業況は一進一退で改善は見られない。
	船舶製造	出荷額は先月を下回っている。4月は新入社員が入社し人員増となった。
	珊瑚装飾品製造	4月度の取引額は、前年同月比58%と大幅な減少となった。
	生鮮魚介卸売	1～3月は例年になくカツオの入荷が少なかった。4月に入ってから、順調に入荷している。やはりカツオがあれば活気がある。今後にも期待している。
	中古自動車小売	オークション等での流通量も増加しており、注文車両も車種によって異なるが、比較的仕入れ易く納車までの期間が短くなっている。また、来店数も増加傾向にあり、注文車両だけでなく展示車両の回転も早い。これから流通量も徐々に減少するので、仕入れを強化している。
	商店街(高知市)	駐車場状況について、利用台数は前年の101.1%(206台増)、料金収入は前年の103.8%(306千円増)。4月5日(土)・6日(日)の2日間、「高知アニクリ祭2025」が高知市中心市街地で開催された。メイン会場は高知県民体育館で、おまちエリアとして帯屋町商店街およびおまち多目的広場でもイベントが行われた。両日とも多くの来街者が訪れ、商店街は大いに賑わった。4月にはクルーズ船が13隻寄港し、ひろめ市場を中心に多くの外国人観光客が訪れ、商店街は賑わいを見せた。

	商店街(四万十市)	今年の藤祭り中止。来年からどういう形態にするのか実行委員会で検討中。下町郵便局の田中局長が退職され、竹外(新)局長が就任された。月末の「おかみさんまつり」は多数の出店があったが駐車場が空いてなくて寄れなかった、という声も多かった。
	旅館・ホテル	1～2月に比べると宿泊客は増加しているが、前年に比べると状況は悪化。GWも予約受注は伸びず、需要は5月3日・4日に集中している。宴会動向はまずまずの受入状況である。
	旅行業	組合クーポン前年同月対比79%。全旅クーポン合算後、前年同月対比74%。修学旅行の実施時期の変更(春から秋へ)を受け、宿泊売上が大幅に減少している。
	IT事業	今月の売上は、年度末であった先月に続き伸び悩み、前年度比では過去5年間で最も低調な結果となった。一方、共同受注事業においては、青年部を中心とした自治体の入札活動が進展し、契約に結び付く成果が始まっている。これらの案件は売上としては概ね1年後に反映される見込みであり、現時点では数値に現れていないものの、引き続き地道な取り組みを継続していく方針である。また、組合員間でリソースや得意分野を把握・共有する仕組みづくりを進めており、座談会などを通じた交流も活発化している。今後は、補助金の活用も視野に入れつつ、組合員全体で顧客の潜在需要の掘り起こしに注力していきたい。
	一般土木建築工事	高知県、四万十市の発注工事高は前年4月と同程度である。
	電気工事	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比132.5%となった。高知中央地区が51%減となったが、特に香長・須崎地区が大幅増となった。
	タクシー	実働1日1車当りの前年同月比運送収入:103.7%、輸送回数:107.2%、実働率:50.2%。前月21日より配車アプリがスタートした。頑張っ始めた会社もあるが、使い方がまだスムーズにいかないドライバーもいる。いろいろ問い合わせがあるが、ダウンロードすれば1,000円のクーポンが付いている。4,000枚のクーポンは無くなり市役所は3,000枚追加したようである。タクシーが必要な時はアプリで呼んでください。

	酒類製造	原料米の価格の問題、米国の関税問題など、懸念条件が山積みである。
	製材	燃料・資材等のコストが上昇しており、収益面は低調である。
	建具	公共工事、個人住宅(特に新築住宅)の仕事が少なく、GW前の駆け込みの仕事も少なかった。
	印刷	先月に引き続き操業度は低下傾向。県内需要は全般に低調、県外需要は持ち直した感じがある。また、用紙及びインキの出荷量は減少し、版材は昨年同様に小ロット化が進んでいる模様。
	卸団地	観光、外食に関して、全体的に動きが鈍い印象。「あんぱん」効果により好転することを期待するが、全体的な値上げの影響は否めない。また、アメリカの関税措置による株価の不安定さも売上に大きく影響しているようである。早期解決を望む。
	青果卸売	4月の取扱高は組合員全体で前年対比87.4%となった。野菜の単価が下がった事と果物の入荷減が原因。今年の1月～4月の累計でも前年比99.9%となり青果業にとって非常に厳しい状況。
	各種小売(四万十町)	4月は新入生入学の時期であり、特に用品関連の動きがある月である。しかし、地域内の新入生の数は減る一方であり、用品関連の売上も年々減少している。本年度はGWも前半と後半に分かれており、地域内への観光客流入は4月時点で多くない印象である。物価高騰も続いており、地域の小売商店にとって依然厳しい状況が続いている。
	ガソリンスタンド	4月末現在の激変緩和措置の補助額は0.9円/Lとなり先週の0円より増額となった。政府の激変緩和措置の補助は5月より新たな補助へ変わり定額10円となる見込みである。詳細は分かっていないが恐らく段階的に10円まで補助額を上げていく見通しである。それに伴い市況も段階的に下がると思われる。原油価格は下落気味だが戦争が終結しない以上先が読めない。
	商店街(安芸市)	昨年好評だったお花見会を実施。今年は約70名の参加があった。2月に「きさらぎ市」の復活をさせた安芸高校生が成果を発表し、商店街で仕入れた料理や地域活動支援センター「ニコスマイル」の特製「ニコ焼き」などもふるまわれ、楽しく交流ができて皆さんに喜ばれた。商店街に新しく出来たAI活用型コンタクトセンター「エバユニーク安芸」の開所式があり、約20名が雇用され地域のにぎわいが期待される。
	飲食店	売上高は12カ月連続で前年同月を下回った。前年度比で5～10%減。高知市中心部や観光、レジャー等に係る飲食店に限って言えば集客は好調だったが、県の東・西部の集客は悪い。全体としてはコロナ禍以前との売上比較で約8～9割。物価高により県内消費者の購買意欲が相当下がっており、集客が覚束ない。前年同月に比べ更に物価は高騰。光熱費、仕入価格、人件費、ありとあらゆるものが上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
	クリーニング	ホームクリーニングは冬物の衣替え時期に当たり繁忙期であるが、物価高騰による節約志向、衣類カジュアル化の一層の進展、肌寒い季節の関係などの影響か、需要点数が減少している。物価、エネルギー価格、資材価格が上がっても、料金改定アップできる状況にはない。リネンサプライは堅調。
	一般貨物自動車運送	組合事業は昨年度を若干下回った。組合員企業も業績は伸びていない。燃料価格は高止まりしたままではあるが、トランプ政権の関税等の混乱により円高傾向や原油価格が落ち着いたこともあり、補助金がほぼ0円となったにも関わらず4月は数十銭の上げにとどまった。コロナ以降ずっと荷動きが低迷した状態での新年度はまだまだ厳しい状況といえる。